

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																							
アルスコンピュータ専門学校		昭和63年3月31日		荻野 欣男		〒360-0046 埼玉県熊谷市鎌倉町124番地 (電話) 048-526-0919																																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																							
学校法人郷学舎		昭和63年3月31日		新井 公一		〒360-0046 埼玉県熊谷市鎌倉町124番地 (電話) 048-526-0919																																							
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																																							
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	福祉保育科 (幼児保育コース)			平成19年文部科学省 告示第20号	-																																							
学科の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・指導力とITスキルを持ち合わせ、子どもと同じ目線で向き合える幼稚園教諭・保育士を育成。 ・保育・幼児教育に関する高度な専門知識を持つ。 ・保育・教育・福祉部門で幅広く活躍できる幼児教育者を育成。 ・現場に即戦力として対応できる人材の育成。 																																												
認定年月日	平成26年 3月31日																																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																						
3年	昼間	2,512時間	1,096時間	240時間	800時間	0時間	0時間																																						
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																							
30人		16人	0人	4人	10人	14人																																							
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日 			成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末テスト、授業態度、出席率、実習成果などを総合的に勘案して行う。 																																								
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■学年始:4月1日 ■夏季:8月6日～9月4日 ■冬季:12月23日～1月5日 ■学年末:3月31日 			卒業・進級条件	<ul style="list-style-type: none"> [卒業]3年間以上在学し、所定の授業科目を履修し、その単位を157時間単位(2,512時間)以上取得していること。ただし、編入学生として入学を認められた学生においても、157時間単位(2,512時間)以上を修得していること。また、所定の卒業基準検定を2つ以上取得していること。 なお、時間単位の付与について、1コマ90分を2授業時数として計算し、8コマ(16授業時数)の履修をもって1時間単位を認定している。また、実験・実習及び実技に分類している授業において、講義・演習などの授業形態による事前学習と、実施期間中の計画書の作成や、実施後のレポート作成などを総合的に組み合わせて授業を行っている。 以上のことを踏まえ、講義・演習・実験・実習・実技の授業形態にかかわらず、同様の基準により単位認定を行っている。 [進級]1年間以上在学し、所定の授業科目を履修し、その単位を取得していること。2年次から3年次へ進級する場合は2年間以上在学し所定の授業科目を履修し原則として通算80単位以上修得していること。 																																								
学修支援等	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・保育者になるべく知識、技術、資質、メンタル面の強化指導。 ・実習事前指導は、指導案を個別に添削し繰り返し指導を行っている。 ・保育教職実践演習では、一人一人模擬授業を行い、振り返りと助言を行っている。 			課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類 桶祭(文化祭)、スポーツ大会、1日研修旅行 ■サークル活動: 無 																																								
就職等の状況※2	<ul style="list-style-type: none"> ■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 保育園、幼稚園、認定こども園、児童養護施設、障がい者支援施設など ■就職指導内容 個々の能力や資質、適性を把握し個別指導を行っている。 ・面接試験対策…担任、副担任による模擬面接指導。 ・実技試験対策…声楽、器楽担当教員による「弾き歌い」の個別指導。 ・作文、小論文対策…分野における課題を設定し添削指導。 ・保育士模擬試験(教養、専門科目)の実施。 ■卒業生数 : 7 人 ■就職希望者数 : 7 人 ■就職者数 : 7 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 特に無し 			主な学修成果(資格・検定等)※3	<ul style="list-style-type: none"> ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園教諭二種免許状</td> <td>①</td> <td>7人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>保育士資格</td> <td>①</td> <td>7人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>社会福祉主事(任用)資格</td> <td>①</td> <td>7人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>リトミック指導者資格(初級・中級)</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>幼児体育指導者検定</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>介護職員初任者研修資格</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>WORD検定</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>EXCEL検定</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>7人</td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	幼稚園教諭二種免許状	①	7人	4人	保育士資格	①	7人	6人	社会福祉主事(任用)資格	①	7人	7人	リトミック指導者資格(初級・中級)	③	7人	7人	幼児体育指導者検定	③	0人	0人	介護職員初任者研修資格	③	0人	0人	WORD検定	③	7人	6人	EXCEL検定	③	7人	7人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																										
幼稚園教諭二種免許状	①	7人	4人																																										
保育士資格	①	7人	6人																																										
社会福祉主事(任用)資格	①	7人	7人																																										
リトミック指導者資格(初級・中級)	③	7人	7人																																										
幼児体育指導者検定	③	0人	0人																																										
介護職員初任者研修資格	③	0人	0人																																										
WORD検定	③	7人	6人																																										
EXCEL検定	③	7人	7人																																										
<p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特に無し</p>																																													

中途退学の現状	<p>■中途退学者 0名 ■中退率 0.0%</p> <p>平成3年4月1日時点において、在学者23名（令和3年4月1日入学者を含む） 令和4年3月31日時点において、在学者23名（令和4年3月31日卒業者を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由</p>
	<p>■中退防止・中退者支援のための取組</p> <p>退学防止会議を定例的に実施し、個々の学生の状況把握を行い、二者面談・三者面談によりきめ細かい対応を図っている。保護者との連携、信頼関係を築いている。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>・奨学生制度：人物、学力ともに優れ、学内において模範生となるに相応しいと認められる学生に対して月額20,000円の奨学金(返還義務無し)を給付する。 ・「埼玉県専門学生の授業料減免事業」に伴う減免制度：勉学に対する意欲がある学生のうち経済的理由(条件有)により修学が困難な学生に対して総額30万円の授業料減免を行う。</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科のホームページURL	<p>http://www.arsnet.ac.jp/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①産業界では、その活力の源泉である実践的な職業能力を持つ人材を強く求めており、実務で活かせる技術・資格はもちろん、社会人として兼ね備えておくべきマナーやビジネス能力等においても同時に育成する。
- ②企業や各種団体等が主催する様々な研修会や勉強会への積極的な参加、また、企業等と連携し組織した教育課程改善委員会での意見交換や、業界関係者からのヒアリングの実施等を通じて、各分野で求める人材像についての意見を集約する。
- ③本校の教育方針や社会的背景などに鑑み、学内のカリキュラム編成委員会にて、授業科目の開設、改善および授業内容を編成し、実践的な職業能力を持つ人材を育成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本校の教育課程改善に関する規定に基づき、教育課程改善委員会を開催し、業界が求める人材像等について委員の意見を伺う。その意見を参考に内部教職員で組織するカリキュラム編成委員会にて教育課程の編成を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
小林 大輔	エッジテクノロジー株式会社	令和3年10月1日～令和5年9月30日	③
大野 真	CompTIA日本支局	令和3年10月1日～令和5年9月30日	①
川島 信二	株式会社エヌシステム	令和3年10月1日～令和5年9月30日	③
若山 晋	インプラス株式会社	令和3年10月1日～令和5年9月30日	③
山岸 光信	山岸光信建築設計事務所	令和3年10月1日～令和5年9月30日	③
宮迫 功次	株式会社 うえぶ屋	令和3年10月1日～令和5年9月30日	③
山田 典男	ビジネス教育実践学会	令和3年10月1日～令和5年9月30日	②
富岡 伸夫	社団法人熊谷薬剤師会 株式会社トミオカ薬局	令和3年10月1日～令和5年9月30日	①
新 道行	たつみ印刷株式会社	令和3年10月1日～令和5年9月30日	③
建川 勝彦	社会福祉法人埼玉慈恵会 埼玉慈恵病院	令和3年10月1日～令和5年9月30日	③
大谷 光代	NPO法人なでしこ保育研究所 社会福祉法人なでしこ会	令和3年10月1日～令和5年9月30日	①
新井 深雪	学校法人清武学園 荒川こども園	令和3年10月1日～令和5年9月30日	③
荻野 欣男	アルスコンピュータ専門学校 校長		
正田 淳一	アルスコンピュータ専門学校 副校長		
籠原 智恵	アルスコンピュータ専門学校 教務部教務課長		
長瀬 あゆみ	アルスコンピュータ専門学校 教務部課長補佐		
皆川 博	アルスコンピュータ専門学校 教務部係長		
吉橋 大樹	アルスコンピュータ専門学校 教務部副主任		
小関 士朗	アルスコンピュータ専門学校 教務部副主任		
戸川 千詠子	アルスコンピュータ専門学校 教務部学務課特務		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回実施。(毎年10月・2月を予定)

(開催日時)

第1回 令和3年10月13日 15:00～17:00

第2回 令和4年 2月10日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

カリキュラム作成においては、「人間性」や「現場に適應する力」「表現する力」「チームワーク」「信頼関係」などの普遍的な部分を大切に、かつ、時代や現場の状況を把握した内容が望ましい。また情報リテラシーや技術を備える幼児教育者を育成することにより就職先の視野が広がるのご意見を頂いた。学校の授業以外に、ボランティア活動を通して経験値を増やし、将来の職業像につながることを目標とした。コロナ禍のため限られたボランティア活動のみ参加した。先輩・後輩の縦の繋がりが、学生が主体となって、先輩から後輩へ継承することができるようになった。実習座談会や報告会の開催をし、学生交流を行った。情報処理の授業ではWORD、EXCELの検定取得、PowerPointを使って電子絵本紙芝居の製作、実習報告会、保育・教職実践演習で発表を行い、プレゼンテーション力を養った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

近畿大学九州短期大学通信教育部の学習便覧に基づき、児童福祉法に定められた規定に基づき設置された認可保育園に実習生の受入を依頼する。

受入園にて保育士の指導を受け、見学・観察・参加・責任実習を経験する。受入園では、個々の実習生に対し、勤務状況、実習日誌の記録、子どもの関係、保育の計画、実践上の方法技術、全体的な実習態度により総合評価を行う。実習にあたっては、「実習事前指導」の科目を必ず受講することが必修となっている。また、実習後は実習事後指導を行い、実習の感想や総括、次回に向けての反省、改善の確認を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

事前オリエンテーションに参加して、事前の準備を行う。

受入園にて担当保育士の指導を受け、見学・観察・参加・責任実習を経験する。

受入園では、個々の実習生に対し、勤務状況、実習日誌の記録、子どもとの関係、保育の計画、実践上の方法技術、全体的な実習態度により総合評価を行う。その評価を踏まえ、担当教員が成績評価、単位認定を行う。

受入園で、近畿大学九州短期大学保育科の評価基準に基づいて行う。評価項目は、1.子どもとの関係 2. 教育の計画 3. 実践上の方法技術 4. 全体的な実習態度の4項目による総合評価5段階(ABCDE)で評価を行う。E評価の場合は、不合格となり再実習となる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育実習Ⅰ(保育所)	保育実習Ⅰは、日々の学習を通じて得た知識、技能、心構えを実際の保育現場で、乳幼児教育及び生活指導の学習を体験しようとする。保育実習は乳幼児の生活指導を中心に行い、子どもの発達助成を目指す。各保育所での保育は家庭的色彩が濃厚であるため、各保育所の特殊事情に即応できる能力を実践の場を通じて学び、保育者としての精神の向上と資質を高めることを目標としている。	きむら認定こども園、蓮田市立関戸保育園、こもれびの森保育園、花園エンゼル保育園、北泉保育園、風の森保育園、花園第2エンゼル保育園、なでしこ保育園、北本市立中央保育所、秩父市立永田保育所、秩父市立花の木保育所
教育実習②	教育実習は、日々の学習で修得した知識や技能を、体験を通して実際の教育現場で実践することにより、幼児教育に対する理解を深めるとともに、現場における指導技術や実践活動を通して学び、教育者としての精神の向上と、資質を高めることを目標とする。実習事前指導:実習生として実際の教育現場につく前に、教育者としての知識、心構えを学習する。	やなぎ幼稚園、うさぎ幼稚園、かみたのこども園、深谷市立花園幼稚園、上里幼稚園、秩父ふたばこども園、荒川こども園、東禅寺幼稚園、ゆめのはなこども園、秩父さくら幼稚園、緑ガ丘こども園
保育実習Ⅰ(施設)	保育実習Ⅰ(施設)は、その習得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する直接的な働きかけを通じて、保育の理論と実践の関係について習熟することを目的としている	【児童養護施設】雀幸園、はなこみち、さんあい、ふれんど、江南 【障がい者支援施設】社会福祉法人清心会さやか
保育実習Ⅱ(保育所)又は保育実習Ⅲ(施設)	保育実習Ⅱ及びⅢは、日々の学習を通じて得た知識、技能、心構えを実際の児童福祉施設の現場で、乳幼児教育及び生活指導の学習を体験しようとする。保育実習Ⅱ及びⅢは乳幼児の生活指導を中心に行い、子どもの発達助成を目指す。保育実習Ⅲは児童福祉施設での保育は家庭的色彩が濃厚であるため、各児童福祉施設の特長事情に即応できる能力を実践の場を通じて学び、保育者としての精神の向上と資質を高めることを目標としている。	高砂保育園、つばさ保育園、国神保育園、風の森保育園 児童養護施設希望館、児童養護施設雀幸園、障がい者支援施設春陽の里
教育実習③	教育実習は、日々の学習で修得した知識や技能を、体験を通して実際の教育現場で実践することにより、幼児教育に対する理解を深めるとともに、現場における指導技術や実践活動を通して学び、教育者としての精神の向上と、資質を高めることを目標とする。実習事前指導:実習生として実際の教育現場につく前に、教育者としての知識、心構えを学習する。	深谷市立藤沢幼稚園、認定こども園長瀬幼稚園、認定こども園松原幼稚園、川本若竹幼稚園、秩父ふたばこども園、認定こども園、認定こども園秩父ほうしょう幼稚園、老本幼稚園

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校規定「教員研修・研究に関する要綱」で以下のように定めている。

質の高い授業、実績の向上、円滑なクラス運営を行うための教育力の向上や、将来予想される職務の遂行に必要な知識技術の習得を図るとともに外部情報の収集、外部関係者との関係を築き、啓発を図ることが重要である。

そこで、本校の教育体制を強化する事を目的とし、教育基本法に定められている養成と研修の充実を組織的に実施する。

なお、この教育方針の目的を達成するため、年度ごとに研修・研究計画を策定し研修を実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「今、子どもたちに必要な支援を考える」日時:令和3年9月11日

研修名「令和3年度学校保健講習会」日時:令和4年2月4日

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「実践行動学Webセミナー」 日時: 令和3年6月29日、7月8日

研修名「主体的・対面的で深い学びを実現するGoogle式10X授業デザイン研修」 日時: 令和3年8月19日

研修名「専修学校における職業教育の質向上に向けた取組－先進事例から学ぶ職業教育マネジメント」

日時: 令和4年3月2日

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

NPO法人なでしこ保育研究所が主催する「男性保育士向け研修会」に参加を計画している。現場での男性保育士の現状や必要な技術などを学生指導や就職指導に役立てるために研修会への参加を計画している。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ICTを活用した、アダプティブ・ラーニング教授法」日時: 令和4年10月(連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会)

内容: ICTを活用しながら、学習状況を把握し、適切な指導を行うスキルや技術を学ぶ。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校で実施した自己点検・評価結果に対して、企業関係者、教育関係者、地域代表者、保護者代表、卒業生代表で構成される学校関係者評価委員会で内容を協議する。本校の学校運営についてそれぞれの立場から発言いただき、前向きな姿勢のもと、本校の教育活動がより良くなるための協議を行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育人人材像
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム等
(3) 教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、
(4) 学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、保護者との連携等
(6) 教育環境	施設・設備等、学外学習、インターンシップ等、防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	関係法令、設置基準等の遵守、個人情報保護、学校評価、教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献、ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

地域社会においてもSociety5.0時代に向けた人材育成が必要となる事を確認し、地元企業の特性等も含めた教育内容の検討を進める事とした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
大久保 和政	熊谷商工会議所 会頭	令和3年8/1～令和5年3/31	業界関係者
大島 匡	医療法人 くぼしまクリニック 事務長	令和3年8/1～令和5年3/31	業界関係者
河邊 広子	学校法人熊谷ルンビニー学園 摩耶幼稚園 園長	令和3年8/1～令和5年3/31	業界関係者
村松 忠治	株式会社テクニカル・ソリューション 代表取締役	令和3年8/1～令和5年3/31	業界関係者
中尾 洋道	株式会社明幸フォーラム 代表取締役	令和3年8/1～令和5年3/31	業界関係者
中村 克彦	元 深谷市教育長	令和3年8/1～令和5年3/31	教育関係者
和田 広之	一般社団法人 さいしんコラボ産学官 専務理事	令和3年8/1～令和5年3/31	地域代表
大城 亜弓	在校生保護者代表	令和3年8/1～令和5年3/31	保護者
隅田 和利	卒業生代表	令和3年8/1～令和5年3/31	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.arsnet.ac.jp/>

公表時期: 令和3年9月11日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

高等教育機関としての社会的説明責任を果たし、公正かつ透明性の高い運営を実現し、自立的な運営と教育の質とレベルの向上に資することを目的とする。企業等関係者に対しては、本校教育内容を認知していただく事で、更なる対話が促され、教育内容・方法の改善につながる事を期待する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校基本情報、学校沿革、目標及び計画(建学の精神、教育理念、教育方針)
(2)各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針、各コースの定員及び修業年数、学習指導方針、授業時間数等
(3)教職員	教職員数・組織体制、教職員の実務経験、教職員研修の基本方針、教職員研修の実績
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、企業等と連携した実習・演習の実施実績、就職支援等
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動
(6)学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い、活用できる経済的支援措置の内容等
(8)学校の財務	事業報告書、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己点検評価・学校関係者評価の結果、評定結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	留学生の受け入れ状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.arsnet.ac.jp/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 福祉保育科 幼児保育コース) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			音楽表現技術 (器楽)	近畿大学九州短期大学スクーリング科目、ピアノレッスンおよび認定試験	2後	8	0.5			○	○			○	
○			音楽表現技術 (声楽)	近畿大学九州短期大学スクーリング科目、声楽レッスンおよび認定試験	2後	8	0.5			○	○			○	
○			ピアノレッスン Ⅲ	バイエル教則本を用いてピアノ中級編や実習に向けた季節の歌を学ぶ	2通	56	3.5			○	○			○	
○			声楽レッスン	声楽の基礎を学びながら実習に向けた季節の歌や手遊びを学ぶ	2後	32	2.0			○	○			○	
○			人間関係 (指導 法)	子どもの人間関係の形成をめぐる諸問題について学ぶ	2後	16	1.0	○				○	○		
○			社会福祉	社会福祉の概要や支援について学ぶ	2通	64	4.0	○	△		○			○	
○			子ども家庭福祉	子どもと家庭に関する幅広い内容を学ぶ	2前	40	2.5	○	△		○			○	
○			子ども家庭支援 の心理学	生涯発達に関する心理学の知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題について学ぶ	2通	40	2.5	○	△		○			○	
○			保育原理	保育の基礎的な知識を学ぶ	2前	32	2.0	○			○		○		
○			社会的養護Ⅱ	児童福祉施設入所児童の支援方法を学ぶ	2後	24	1.5	○			○			○	
○			幼児への特別な 支援	特別の支援を必要とする幼児の発達と心理的特性及び学習の過程を学ぶ	2後	24	1.5	△		○	○			○	

○		子どもの保健	子どもに起こりやすい疾病や事故、発達段階各期の特徴を学ぶ	2後	40	2.5	△		○	○				○
○		幼児と健康	幼児体育を実践するうえで必要な運動遊びのレパートリーを習得する	2前	16	1.0			○		○			○
○		子ども家庭支援論	地域社会や家族が果たす役割や機能、および保育所に求められている役割を学ぶ。そこから子育て家庭への支援法を学ぶ	2後	64	4.0	○				○			○
○		障害児保育	子どもの心身の発達及び脳の発達について学び、障害児の発達の变化を促す保育的援助について考察する	2後	16	1.0	○				○			○
○		子どもの食と栄養	子どもの各時期の栄養法を理解し調理技能習得の為、調理実習を実施	2前	48	3.0	○		△	○				○
○		教育相談	子どもの世界や保育士の役割についての理解を深め、子どもや家族への支援スキルの基礎を学ぶ	2前	64	4.0	○				○			○
○		保育実習Ⅰ事前事後指導（保育所）	保育所及びそれ以外の児童福祉施設での実習を円滑に行うために必要な事柄を学ぶ	2前	32	2.0	○	△			○			○
○		保育実習Ⅰ事前事後指導（施設）	の児童福祉施設での実習を円滑に行うために必要な事柄を学ぶ	2通	32	2.0	○	△			○			○
○		教育実習事前事後指導	教育実習の目的や意義を理解する	2後	32	2.0	○	△			○			○
○		幼児と造形表現	幼児の造形表現への理解を深め、実践的造形表現教育指導を習得する	2後	48	3.0	△			○	○			○
○		幼児と環境	幼児教育の基本及び「環境」のねらいと内容を理解する	2後	16	1.0	○							○
○		幼児と言葉	人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について学ぶ	2後	16	1.0	○							○
○		リズム表現（指導法）	幼児の心身の発達を促し、リズム感を付ける。体を通して感じた事や思った動きで様々な表現ができるよう指導・援助法を習得する	2前	16	1.0				○		○		○
○		情報処理Ⅲ	アプリケーションソフトの中級、応用編	2通	40	2.5	△			○	○			○

○		保育実習Ⅰ（保育所）	認可のある保育所での10日間の見学・観察実習	2前	80	5.0			○	○	○	○
○		教育実習②	認可のある幼稚園での10日間の見学・観察・参加実習	2後	80	5.0			○	○	○	○
○		キャリアデザインⅡ	履歴書の書き方・オリエンテーションの電話応対・園訪問・入社試験・礼状等の知識を習得させる	2通	128	8.0	○		○		○	
○	○	企業実習	企業での就業体験（インターンシップ）を行う。保育コースはボランティア活動を行う	2通	32	2.0			○	○	○	○
○		ピアノレッスンⅣ	バイエル教則本を用いてピアノレッスンの中級及び上級編および子どもの歌や季節の歌の弾き語りを学ぶ	3通	56	3.5			○	○		○
○		幼児と人間関係	子どもの人間関係の形成をめぐる諸問題について学ぶ	3後	16	1.0	○			○		○
○		子育て支援	相談援助活動（社会福祉援助技術）の基礎を学ぶ	3後	24	1.5			○	○		○
○		子どもの健康と安全	子どもに起こりやすい疾病や事故、疾病予防と事故予防、対策など実践を踏まえて学ぶ	3前	24	1.5	○			○		○
○		乳児保育Ⅰ	子どもの成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学び、知識と技能の基礎を身に付ける	3後	32	2.0	○			○		○
○		乳児保育Ⅱ	子どもの成長発達や発達課題、保育内容、保育実践の方法を学び、知識と技能の基礎を身に付ける	3後	16	1.0	○	△		○		○
○		保育実習事前事後指導Ⅱ	保育実習の枠組みを理解し実習に臨む心構えを作り指導案の作成や実習日誌の書き方等の知識と技術を学ぶ	3前	16	1.0	△	○		○		○
○		保育実習事前事後指導Ⅲ	施設実習の指導計画の作成や記録などの保育の実践力を養うため、具体的な事例を通して実習計画や日誌の記録など実践的な内容を学ぶ	3通	16	1.0	△	○		○		○
○		保育実習Ⅰ（施設）	児童厚生施設、知的障害児通園施設等、児童福祉施設など社会福祉関係諸法令の規定に基づいた保育所以外での10日間以上の実習	3前	80	5.0			○	○	○	○
○		保育実習Ⅱ	認可のある保育所および施設での責任実習を含む10日間の実習	3前	80	5.0			○	○	○	○

○		教育実習③	認可のある幼稚園での責任実習（全日実習・部分実習）を含む10日間の実習	3前	80	5.0			○		○	○		○
○		保育の心理学	乳幼児期の発達特徴や精神発達、ハント、ルソー、ピアジェの理論を学ぶ	3通	48	3.0	○			○				○
○		保育・教職実践演習	これまでのすべての授業を体系的に統合する機会とする	3通	112	7.0	△	○		○				○
○		特別講義Ⅱ	実習事前事後指導の強化、指導案の指導・添削等	3通	96	6.0	○			○				○
○		情報リテラシ	情報の基礎的な知識、クライアント環境の操作・利用と役割・機能、および情報の利用、情報モラルなどに係る基礎知識を学ぶ	3通	80	5.0	○			○				○
○		情報処理Ⅳ	アプリケーションソフトの応用編 PowerPointを利用する技術、プレゼンテーションを学ぶ 電子絵本、紙芝居の作成、プレゼンテーション 実習報告会プレゼンテーション	3通	88	5.5	△		○	○				○
○		キャリアデザインⅢ	履歴書の書き方・就職書類の書き方、就職活動の支援、指導 入社試験対策（模擬面接）・内定後の礼状等の知識を習得させる	3通	128	8.0	○	△		○				○
合計				46科目	2,136単位時間(133.5単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
[卒業] 3年間以上在学し、所定の授業科目を履修し、その単位を157時間単位(2,512時間)以上取得していること。ただし、編入学生として入学を認められた学生においても、157時間単位(2,512時間)以上を修得していること。また、所定の卒業基準検定を2つ以上取得していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。